

再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課

担当課長名：東川 直正

事業名 <small>どうおうけんれんらくどうろ</small> 道央圏連絡道路（一般国道337号） <small>ながぬまなんぼろ</small> 長沼南幌道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局	
起終点 自：北海道夕張郡長沼町東10線 至：北海道空知郡南幌町南15線	延長 14.6 km		
事業概要 道央圏連絡道路は、千歳市を起点とし、小樽市に至る延長約80kmの地域高規格道路である。 このうち、長沼南幌道路は、中樹林道路及び泉郷道路と接続し、北海道縦貫自動車道及び北海道横断自動車道と連携して、高速ネットワークの拡充による札幌圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び拠点空港新千歳空港、国際拠点港湾苫小牧港等への物流の効率化等を支援することを目的とした延長14.6kmの事業である。			
H23年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H25年度用地補償着手	H29年度工事着手
全体事業費	約240億円	事業進捗率	約18%
		(平成30年3月末時点)	供用済延長 0.0km
計画交通量	9,800～15,000台/日		
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益
	(事業全体) 2.3	(残事業)/(事業全体) 207/261億円 (事業費：148/203億円) (維持管理費：59/59億円)	(残事業)/(事業全体) 602/602億円 走行時間短縮便益：459/459億円 走行経費減少便益：108/108億円 交通事故減少便益：36/36億円
	(残事業) 2.9		基準年 平成30年
感度分析の結果 事業全体及び残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=2.0～2.6（交通量±10%） 【残事業】交通量：B/C=2.5～3.3（交通量±10%） 事業費：B/C=2.2～2.4（事業費±10%） 事業費：B/C=2.7～3.1（事業費±10%） 事業期間：B/C=2.2～2.4（事業期間±20%） 事業期間：B/C=2.8～3.0（事業期間±20%）			
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ①物流拠点の利便性向上 ・石狩湾新港と苫小牧港間の所要時間が短縮され、石油製品、農水産品等の物流輸送の利便性向上が期待される。 ②農産品の流通利便性向上 ・速達性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、拠点空港への流通利便性向上が期待される。 ③拠点空港新千歳空港へのアクセス利便性向上 ・円滑で定時性の高いルートが確保され、新千歳空港からの利便性向上が期待される。 ④道路交通の安全性向上 ・並行国道を通過する交通の転換が見込まれ、道路交通の安全性向上が期待される。 ⑤異常気象時及び冬期間における走行環境の安全性向上 ・冬期視程障害の緩和や冠水予想区間の回避により、走行環境の安全性向上が期待される。			
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 江別市など5市3町の首長等で構成される「道央圏連絡道路整備促進期成会」等から整備促進の要望を受けている。			

